

## 2 地 理 歴 史

「世界史 A」	単 位 数	2 単 位
	学科・学年・学級	海洋科学科 第3学年A～C組

### 1 学習の到達目標等

学習の到達目標	1 近現代史を中心に、世界の歴史をわが国の歴史と関連づけながら理解する。 2 人類が直面する課題を多角的に考察する。 3 世界の構造や成り立ちを歴史的な視野から考察する力と態度を身につける。 4 1～3の学習の成果を踏まえ、民主的で平和的な国家・社会の一員としての自覚と、国際社会に生きる友好的な日本人としての資質を養う。
使用教科書・副教材等	実教出版 『新版世界史A』 副教材なし

### 2 評価の観点、内容及び評価方法

	評価の観点及び内容	評価方法
関心・意欲・態度	近現代史を中心とする世界の歴史に対する関心を高め、意欲的に追求している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学習教材の準備</li> <li>・学習活動への参加状況</li> <li>・提出物の期限内の提出</li> </ul>
思考・判断・表現	近現代史を中心とする世界の歴史を、日本の歴史と関連づけて、多面的・多角的に考察し、その過程や結果を適切に表現している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・授業プリントの記入内容</li> <li>・発表の内容や方法</li> </ul>
資料活用の技能	近現代史を中心とする世界の歴史に関する諸資料を収集し、有用な情報を選択して、読み取ったり図表などにまとめたりしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地図作業の精度</li> <li>・地図帳の準備</li> <li>・資料の読解</li> </ul>
知識・理解	近現代史を中心とする世界の歴史についての基本的な事柄を、地理的条件やわが国の歴史と関連づけながら理解し、その知識を身につけている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査</li> <li>・発問に対する回答内容</li> </ul>

### 3 評価

単位の修得認定については以下の通りとする。 ①出席が総授業数の2/3以上あること（ <b>授業中寝ている者は欠課とする</b> ）。遅刻や早退が無いこと。 ②毎時間の目標を達成するように授業に意欲的に取り組むこと。 ③提出物（授業プリント、課題プリント、その他指示されたものなど）を期限までに自分で仕上げ提出すること。 以上の①～③が全て認められなければ、定期考査の点数がいくら良くても修得は認定されない。
1・2学期の中間テストの成績は、考査の点数をそのまま成績とする。
1・2学期の学期末の成績は、中間と期末の考査を70%、平常点（上記の①～③）30%の配分で総合的に評価する。（ <b>学習態度が悪い時は平常点で大幅に減点する</b> ）
年間の学習評価については、1・2・3学期の成績を総合評価して、単位の修得認定あるいは不認定を決定する。

### 4 学習計画

学期	学 習 内 容	月	学 習 の ね ら い	考 査
第1	「世界史」学習について	4	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「世界史」を学ぶ意義、学習到達目標、授業の進め方、評価の方法を理解する。</li> </ul>	中間考査
	I 部ユーラシアの諸文明	5	<ul style="list-style-type: none"> <li>・東アジアの自然環境と諸民族、漢字文化、儒教、中国を中心とする国際体制に触れ、日本を含む東アジア世界の特質をとらえさせる。</li> <li>・南アジアの自然環境と諸民族、仏教の成立、ヒンドゥー教とカースト制度、イスラームの影響に触れ、南アジア世界の特質を把握させる。</li> </ul>	
	1 東アジア世界の形成			
	2 東アジア世界の展開			
	3 東アジア世界の発展			
	4 モンゴル帝国と元			
	5 南アジア世界の形成			
6 南アジア世界の成立と展開				
7 オリエン特世界の統一				

学 期	8	地中海世界の形成	6	・西アジア・地中海の自然環境と諸民族，古代オリエントの遺産，古代ギリシア・ローマの遺産，キリスト教の成立，イスラームの成立と拡大に触れ，西アジア・地中海世界の特質を把握させる。	期 末 考 査
	9	キリスト教の成立と発展			
	10	イスラームの成立			
	11	イスラーム帝国の分裂と多様化			
	12	ヨーロッパ世界の形成			
	13	ヨーロッパ世界の展開			
	14	II部 一体化する世界と日本	7	・大航海時代のヨーロッパとアフリカ，アメリカ，アジアの接触と交流，アジアの諸帝国とヨーロッパの主権国家体制，大西洋世界の展開とアフリカ・アメリカ社会の変容を扱い，16世紀から18世紀までの世界の一体化の動きと近代の日本の対応を理解させる。	
	15	ルネサンスと宗教改革			
	16	大航海時代			
	17	絶対王政の時代			
18	西ヨーロッパ諸国の展開	7			
19	東ヨーロッパ世界の展開				
20	近代ヨーロッパと世界貿易				
20	イスラーム諸王朝の成熟				

第 2 学 期	21	オスマン帝国とヨーロッパ	9	・産業革命と資本主義の確立，フランス革命とアメリカ諸国の独立，自由主義と国民主義の進展を扱い，ヨーロッパ・アメリカにおける工業化と国民形成を理解させる。	中 間 考 査
	22	明から清へ			
	23	産業革命			
	24	アメリカ独立革命			
	25	フランス革命	10		
	26	ナポレオンとウィーン体制			
	27	1848年の革命			
	28	19世紀後半のイギリスとフランス	11	・ヨーロッパの進出期におけるアジア諸国の状況，植民地や従属化の過程での抵抗と挫折，伝統文化の変容，そのなかでの日本の動向を扱い，19世紀の世界の一体化と日本の近代化を理解させる。	
	29	19世紀後半のイタリアとドイツ			
	30	東方問題と19世紀のロシア	12	・科学技術の発達，企業や国家の巨大化，公教育の普及と国民統合，国際的な移民の増加，マスメディアの発達，社会の大衆化と政治や文化の受容などを理解させ，19世紀後半から20世紀前半までの社会の変化について，人類史的視野から考察させる。	
31	19世紀のアメリカ合衆国				
32	西アジアの変動	12			
33	南アジアの変動				
34	東南アジアの変動				
35	中華帝国の動揺				
36	東アジアの変動				
37	東アジアの変革				
38	III部 地球社会と日本				
39	急変する社会				
40	帝国主義とアフリカ分割	12			
40	ヨーロッパ国際関係の緊張				

第 3 学 期	41	第一次世界大戦とロシア革命	1	・帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応，2つの世界大戦の原因と総力戦としての性格，それらが世界と日本に及ぼした影響を理解させ，19世紀後半から20世紀前半までの世界の動向と平和の意義について考察させる。	学 年 末 考 査
	42	ヴェルサイユ体制と国際連盟			
	43	戦間期の欧米と日本			
	44	西アジア・インドの民族運動			
	45	東アジアの民族運動			

※ 担当者からのメッセージ

「過去に目を閉ざす者は，未来に目を向けない者である」という言葉がある。歴史は時間の連続性である，ということは（私たち一人一人の，あるいは世界の）未来もその連続性の延長である。過去を学び，現在を学ぶことは君たちが自分の未来を築いていく時のアドバイスになると考える。

授業では，教科書・プリント・地図帳（2年で使ったもの）などの教材を忘れない。居眠りや私語をしない。他の人の学習に迷惑になることをしない。提出物は期限を守って出す。当然，欠席はしない。遅刻・早退もしない。以上の事を忘れずにねばり強く意欲的に取り組んでほしい。テストの点数がいくら良くても授業への取り組みが不十分であれば単位を修得したとは認めない。